

「到達したところに基づいて」

建物を建てる時にはしっかりとした土台、基礎が不可欠であるように、私たちの人生においてもそうです。でもふと気づいてみたら、土台のことなんか意識することもなくただ流されるままに人生を歩んでいることに気づかされるのが少なくありません。私が日々思い起こし大切にしている愛唱聖句のひとつに、フィリピの信徒への手紙3章16節のみ言葉があります。「いずれにせよ、わたしたちは到達したところに基づいて進むべきです」。これは、聖書を読んでいて何も感じることなくその前を通り過ぎてしまうようなみ言葉かもしれませんが、ある時このみ言葉に出会って、一見どうしようもないようにしか思えなかった自分の人生を、否定することなく、「それがお前の歩んできた人生の今の到達点なのだ」と肯定的に受け止めてくれる眼差しを強く感じて、このみ言葉の前からしばらく動くことができなかつたことがあります。それ以来、何かあるごとにこのみ言葉を思い起こすようになりました。

前のものに全身を向けつつ・・・希望、目標を目指してひたすら走る。しかし同時に「私たちは到達したところに基づいて進むべきです」とパウロは言います。このことは何を言っているのでしょうか。私たちは希望や目標に向かって生きていることが少なくありません。でも、ふとある時それとはあまりにもかけ離れた現実に愕然としてしまうことがあります。そして自分を責めたり人を責めたりするのです。時にはそれが励みになっていくこともあるでしょうが、これしかできない、ここまでしかできなかつた自分や家族、あるいは人をダメな人間と決め付けて嘆いていることがいかに多いことでしょうか。しかしパウロは「到達したところに基づいて進み

なさい」と言います。これは目指していた目標からの評価ではなく今ある現実をひとつの到達点として事実として受け入れるべきことを言っていると思います。現実を否定するのでもなくただ嘆くのもなく、それを受け入れてそこから新たに歩み出すのです。

復活されたイエス様は弟子たちと再会した時、開口一番何と言われたでしょうか。「お前たちはわたしを裏切った。とんでもないやつらだ」と責めたでしょうか。弟子としてあるべき姿でないことを裁いたでしょうか。違います。現れるなりにこう言われたのです。

「あなたがたに平和があるように」。これは、今ある状況を受け入れ、恐れや失意、混乱から解放されるようにとの語りかけであると理解することができます。復活された主イエス様は、私たちがそれぞれ到達したところに基づいて新たな生き方へと導いてくださるのです。イースターおめでとうございます。

(司祭 越山哲也)

